

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために 言語活動の充実を図る3つの提案

平成28年12月 栃木県教育委員会

本資料では、「全国学力・学習状況調査」及び「とちぎっ子学習状況調査」の結果から明らかになった課題を踏まえ、言語活動を充実させるための3つの提案をします。「とちぎの子どもの『確かな学力』向上のために 授業改善に向けた3つの視点」(栃木県教育委員会 H27年度)と併せて御活用ください。

各教科の調査結果から明らかになった課題 (抜粋)

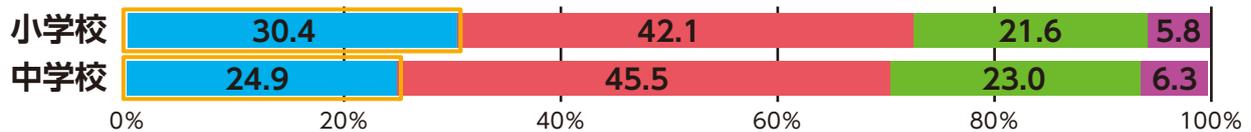
- ◆ 基礎的・基本的な知識及び技能に関する問題は概ね良好な結果であったが、いくつかの問題において課題が見られる。
- ◆ 思考力・判断力・表現力等を問う問題については、依然として課題が見られる。特に、資料や情報に基づいて自分の考えを明確に記述したり、筋道を立てて表現したりするなどの記述式問題の平均正答率が低い。

児童生徒質問紙調査結果から明らかになった課題 (抜粋)

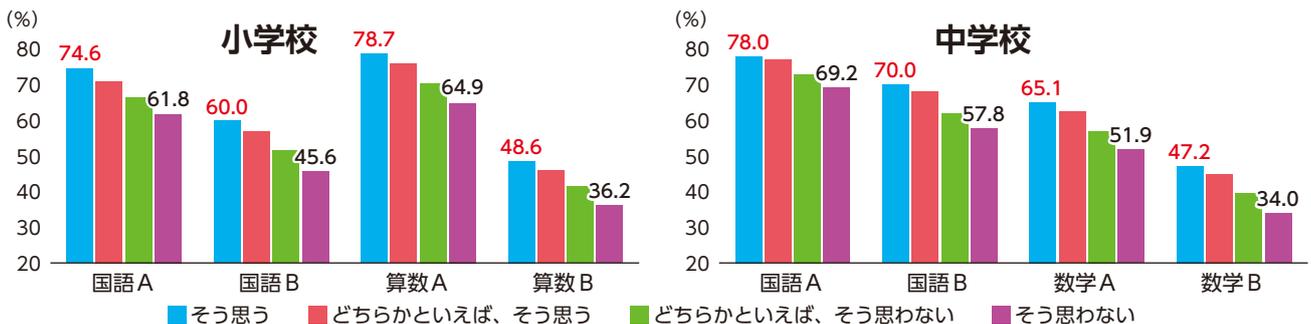
- ◆ 話し合い活動を授業などでよく行っているが、話し合いに深まりを感じている児童生徒が少ない。

「学級の友達と[生徒]の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

※平成28年度全国学力・学習状況調査(栃木県) 児童生徒質問紙



「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、3割程度であることが分かります。



「そう思う」と回答した児童生徒の方が、平均正答率が高いことが分かります。

言語活動の充実を図る3つの提案

- 提案 1** 言語活動を行う**目的**を確認しましょう
- 提案 2** 言語活動を**計画的**に位置付けましょう
- 提案 3** 自分の考えを**書く活動**と、言葉で人に伝える「**説明**」「**話し合い**」などの**活動**を相互に関連付けましょう

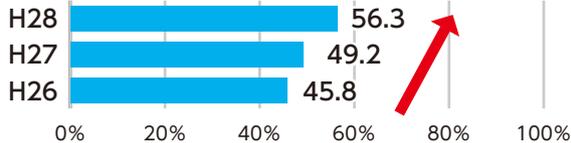
提案1 言語活動を行う目的を確認しましょう

「児童生徒に対して、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」

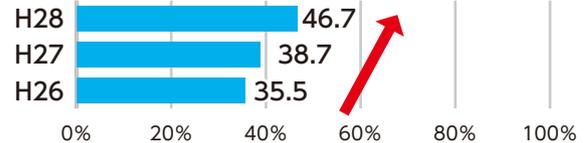
※全国学力・学習状況調査（栃木県） 学校質問紙

※ 「よく行った」と回答した学校の割合

小学校（栃木県）



中学校（栃木県）



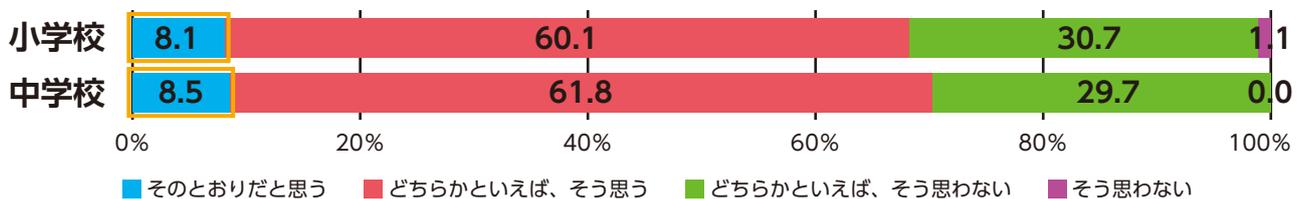
上のグラフを見ると、「よく行った」と回答した学校の割合が、年々増えていることが分かります。

そうですね。平成28年度は、約半数の学校で、学級やグループで話し合う活動を「よく行った」と回答しています。では、次のグラフを見てみましょう。



「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

※平成28年度全国学力・学習状況調査（栃木県） 学校質問紙



「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに1割以下であることが分かります。話し合いなどの活動で、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と捉えている学校が少ないようです。

私は、子どもたちが楽しそうに話し合いを行っていただければいいと思っていて、考えの深まりまでは意識していませんでした。

なるほど。話し合いの場は多く設定されていても、単なる意見交換にとどまり形骸化していたり、話し合わせることで自体が目的になっていたりすることがありますね。

話し合いなどの言語活動をどのように捉えて、授業に取り組んでいったらよいのでしょうか。

話し合いなどの言語活動は、各教科等の目標を実現するための手立ての一つです。言語活動を通してどんな力を育成するかを明確にするとともに、授業の中で、言語活動を効果的に位置付けていくことが大切です。



言語活動の充実に関するQ & A

Q1

言語活動には、どのようなものがあるのでしょうか。



A1

平成20年中央教育審議会答申では、思考力・判断力・表現力等を育むために各教科で必要な学習活動の例として、次の6点が示されています。

- ・ 体験から感じ取ったことを表現する活動
- ・ 事実を正確に理解し伝達する活動
- ・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動
- ・ 情報を分析・評価し、論述する活動
- ・ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する活動
- ・ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる活動 等

Q2

言語活動を充実させると、時間が足りなくなってしまうのでしょうか。



A2

1単位時間の中で、全ての場面において言語活動を充実させようとする、時間が足りなくなることがあります。各教科等のねらいを達成させるための手立てとして、どの場面でどのような学習活動を行うとより効果的かを考えて、言語活動を位置付けることが大切です。

Q3

言語活動を充実させると、基礎的・基本的な知識・技能の習得などがおろそかになってしまうのでしょうか。



A3

言語活動を充実させることは、基礎的・基本的な知識・技能をより確実に習得させることにつながります。

例えば、理科の授業において、児童生徒が、観察実験の結果から分かることをまとめる際、これまでに学習した科学的な言葉や概念を用いて表現したり、話し合ったりすることで、自分の考えを深めるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるのではないのでしょうか。

提案2 言語活動を計画的に位置付けましょう

「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか」

※平成28年度全国学力・学習状況調査（栃木県） 学校質問紙



「言語活動を適切に位置付けたか」という問いに対して、「よく行った」と回答している学校の割合は3割程度ですね。

そうですね。話し合いによる意見の交流の場面を設定するなど、言語活動を意識した授業は、よく行われているようです。でも、「言語活動を適切に位置付けている」という学校は、まだ少ないようです。



「言語活動を適切に位置付ける」とは、どういうことですか。

ここでの「適切に」とは、例えば、「計画的に」ということが考えられます。指導計画の中に言語活動を位置付ける際は、各教科等の指導のねらいのもとに、どのような力を身に付けさせたいのか、そのためにどのような言語活動を行うとより効果的なのかを考えることが大切です。



分かりました。実際に、言語活動をどのように指導計画に位置付けたらよいか、教えていただけますか。

では、「小学校4年 算数 折れ線グラフ」の単元の指導計画を例に、一緒に考えてみましょう。



ステップ1

単元の目標



まず最初に、**単元の目標**をしっかりと確認しましょう。

- 折れ線グラフのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。【算数への関心・意欲・態度】
- 折れ線グラフから変化の様子を読み取り、資料の特徴や傾向を考えることができる。
【数学的な考え方】
- 資料を折れ線グラフに表したり、資料から変化の特徴を読み取ったりすることができる。
【数量や図形についての技能】
- 折れ線グラフで表すことが有効な場面を知り、その読み方や表し方を理解することができる。
【数量や図形についての知識・理解】

ステップ2



次に、単元全体を見通して、単元の目標を達成するために、**どこで、どのような言語活動を位置付けていくと効果的か**を考えます。

第7時に、「折れ線グラフを的確に読みとること」をねらいとした授業を行います。そこでは、単元全体を通して身に付けた力を使って問題解決ができるようにさせたいと思います。



単元の指導計画の中に、**言語活動を計画的に位置付けていくことが**大切です。その際に留意する点は、次のようになります。

第1～3時は、単元のもととなる学習なので、グラフの読み方やかき方をしっかりと身に付けさせましょう。



第5・6時は、状況に応じたグラフの適切な読み方やかき方を学習します。「説明」「話し合い」などの活動を通して、意見の交流を行うとよいですね。



4年算数「折れ線グラフ」 単元指導計画

時数	本時のねらい
第1時 第2時	折れ線グラフの読み方を理解する。
第3時	折れ線グラフのかき方を理解する。
第4時	2つの折れ線グラフを同じグラフ用紙に表して考察し、読み取ることができる。
第5時	適切な目盛りの取り方や省略の仕方を考えたり、折れ線グラフと場面とを結び付けて読み取ったりすることができる。
第6時	折れ線グラフから読み取れることと読み取れないことを考え、折れ線グラフについての理解を深める。
第7時	折れ線グラフを的確に読み取ることができる。
第8時	基本的な学習内容の理解を確認し、定着を図る。

第4時は、前時までに学習したことをもとに考察する学習です。考察させる場面では、自分の考えを書く時間を十分に確保しましょう。



第7時は、身に付けた力を使って、グラフを読んだり、かいたりする学習です。自分の考えを書く活動と話し合い活動を相互に関連付けましょう。



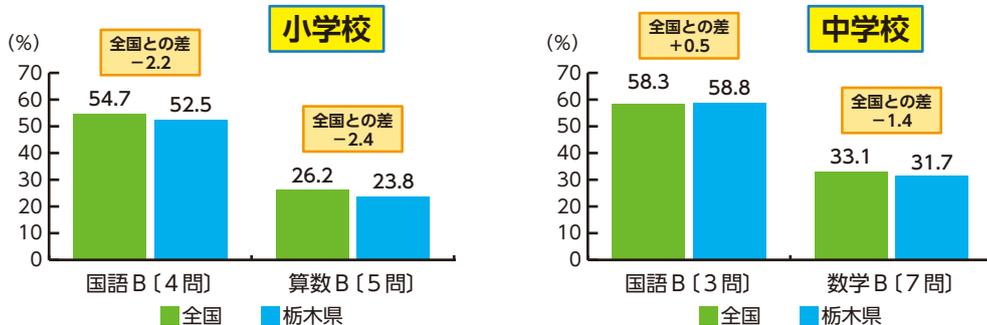
※ この表は、単元指導計画の一部を示しています。

提案 3

自分の考えを**書く活動**と、言葉で人に伝える「**説明**」「**話し合い**」などの活動を相互に関連付けましょう

記述式設問の平均正答率

※ H28全国学力・学習状況調査結果（栃木県）
横軸：問題〔設問数〕



記述式設問において、平均正答率を全国の数値と比べると、中学校国語B以外の教科は、全国を下回っていることがわかります。自分の考えを文章で書くことに関して、引き続き課題があると考えられますね。

そうですね。思考力・判断力・表現力等を育成するために、授業において自分の考えを書く活動を意図的に位置付けることが大切です。また、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付けることによって、自分の考えをまとめ、整理させることも大切です。



before

(例) 書く活動と話し合い活動を関連付けていない様子

それでは、○○について友達と話し合ってみましょう。



急に話し合うように言われても、考えがまとまらないな。話し合いをしても、意見を発表することができないかもしれない。



after

(例) 書く活動と話し合い活動を関連付けている様子

書く活動

それでは、○○について、気付いたことや考えたことをノートに書いてみましょう。その後で、書いたことをもとに話し合います。



よし、気付いたことをノートに書いてみよう。友達は、どんなことを書いているのかな。話し合いのときに聞いてみよう。

話し合い活動

書く活動

話し合いを通して学んだことをもとに自分の意見をノートに書いてまとめましょう。



Aさんは、理由を付けて意見を述べていたな。Bさんは、数や式を使って説明していたな。二人の意見を参考にしてみよう。



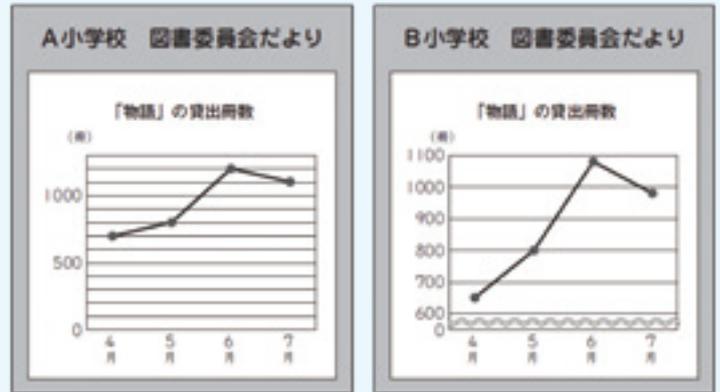
授業の中で、自分の考えを書く活動と話し合い活動を関連付けて行っている場面
「小学校4年 算数 折れ線グラフ」(8時間) 第7時の授業について



本時のねらい

折れ線グラフを的確に読み取ることができる。

各学校の図書委員たちは、読書活動をすすめた成果を表すために、4月から7月までの4か月間の「物語」の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。



平成28年全国学力・学習状況調査 小学校算数B 大問4(3) より

学習活動① 2つのグラフの変化の様子を比較し、1目盛りの違いに気付く。



5月から6月までの1か月間で、A小学校とB小学校のどちらの方が貸出冊数の増え方が大きいでしょうか。
 まず、**気付いたことをノートに書いて**みましょう。次に、書いたことをもとに**話し合います**。



5月から6月の間の貸出冊数の変化を比べると、B小学校の方が、グラフの線の傾きが急に見えるから、貸出冊数の変化も大きいと思います



でも、5月と6月の貸出冊数は、A小学校はおよそ400冊増えていて、B小学校はおよそ300冊増えています。だから、A小学校の方が変化が大きいと思います。

1目盛りの幅が違うから、グラフの線の傾きだけでは、比べられないね。



学習活動② 貸出冊数の変化を比較できるようにグラフを表現し直し、グラフの特徴を話し合う。



2つの学校の貸出冊数の変化は、どうしたら比べやすくなりますか。

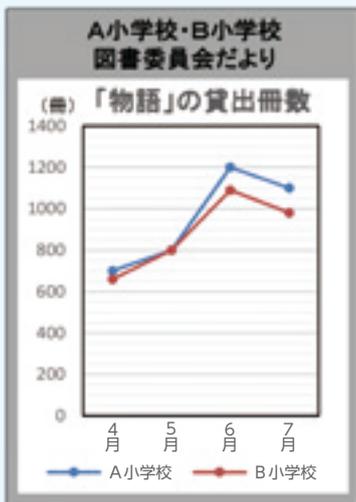


それぞれのグラフの目盛りの幅をそろえるとよいと思います。

それなら、1つのグラフ用紙にA小学校とB小学校の貸出冊数を重ねてかくと、比べやすいと思います。



話し合ったことをもとに**グラフを表現し直す**



表現し直したグラフをもとに**話し合う**



5月から6月までの間の貸出冊数の変化を比べると、A小学校の方がグラフの線の傾きが急だから、貸出冊数の増え方が大きいと思います。



グラフ全体を見ると、A小学校の貸出冊数の増え方は大きいけれど、B小学校の増え方はあまり大きくありません。



話し合ったことをもとに、表現し直したグラフから分かったこと、考えたことを**ノートに書いてまとめ**ましょう。

書く活動

話し合い活動

話し合い活動

書く活動

授業では、言語活動を充実させるとともに、引き続き、「ねらいの提示・振り返る活動」と「自分の考えを書く活動」を適切に位置付け、主体的な学習活動をより効果的に展開しましょう！

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために 授業改善に向けた3つの視点

導入

目標（めあて・ねらい）の共有化

- ◇ 先生と児童生徒でねらいを共有し、学習の見通しをもたせましょう。

展開

自分の考えを書く活動の習慣化

- ◇ 自分の考えを書く活動と、言葉で人に伝える「説明」「話し合い」などの活動を相互に関連付けましょう。

終末

振り返る活動の工夫

- ◇ 児童生徒が自己の学びを実感できる時間を確保しましょう。
- ◇ 児童生徒の振り返りから、実態を把握し、授業改善・指導方法の工夫に向けたヒントを見つけましょう。



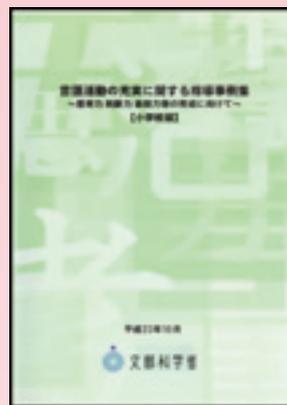
栃木県教育委員会（H27年度）

参考となる資料について

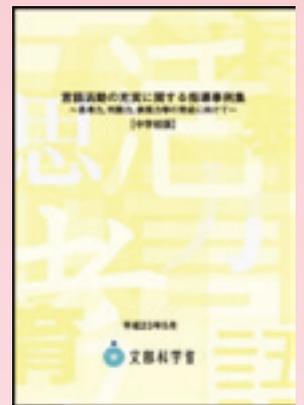
※これらの資料は、それぞれのホームページからダウンロードすることができます。



平成28年度全国学力・学習状況調査関連資料
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター



言語活動の充実に関する指導事例集
～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～
文部科学省（H23年度）



とちぎの子どもの学力向上を図る
授業改善例

栃木県教育委員会（H26年度）



「主体的に考え表現できる子ども」
を育てるために



思考力・判断力・表現力を育む授業づくり
栃木県総合教育センター（H26・27年度）

